

連載 はままつ文化財の散歩道

第14話 伝承に見る三方ヶ原の戦い

今 年は、三方ヶ原の戦いから四五〇年になります。

三方ヶ原の戦いは、元龜三年十二月二十二日、三方ヶ原において、徳川家康軍と武田信玄軍が対決した戦いです。

浜松市内には、家康や三方ヶ原の戦いにまつわる伝承が多く残されています。その一つが「酒井の太鼓」です。三方ヶ原の戦いで敗れた家康軍が浜松城へ帰りますが、追ってきた武田軍によって城が囲まれます。しかし、



はままつしょうやくらさかい たいこうちばくみあ ごまいつづき
▲「濱松城酒井の太鼓打場組上ヶ五枚續」のうち1枚
浜松市美術館所蔵

浜松城の城門は開かれたまま、篝火が焚かれ、そこへ酒井忠次が城の櫓の太鼓を打ち鳴らしたため、武田軍はなにかあると思い、引き上げていったというものです。

この伝承は、講談の中で、軍記物の『三方ヶ原軍記』で語られています。講談師にとって必要な、語る、話す、読む、謡うなどの調子を学び、お腹から声を出し、正しい発声を覚えることができる演目であるため、ほとんどの講

談師が最初に覚えます。

また、歌舞伎の演目にも取り上げられ、錦絵にも描かれています。

八月一日から博物館で展示する組上灯籠も明治期に「酒井の太鼓」を題材に描かれた錦絵の玩具です。

組上灯籠とは、描かれた人物や家屋などを切り抜いて、のりで貼り合わせて芝居の舞台などを組み立てて遊ぶ、今でいうペーパークラフトのようなものです。扱う題材は芝居の演目が多く、人物や建物が一枚の紙に無駄なく描かれ、それらを切り抜き組み立てると、当時の舞台が立体的に再現されます。

三方ヶ原の戦いにまつわる伝承といえば、市の無形民俗文化財に指定されている



▲組上灯籠 櫓復元

遠州大念仏もその一つといえるでしょう。遠州大念仏は、三方ヶ原の戦いで戦死した徳川・武田両軍の霊を慰めるため、三河の念仏僧宗円を招いて、犀ヶ崖で供養をしたのが始まりと伝えられています。

三方ヶ原の戦いについて直接示す資料は多くありません。しかし、今回紹介したような伝承にまつわる芸能や資料からは、後世の人々が三方ヶ原の戦いについて、どのようなイメージを持っていたかがい知ることができます。

(文：浜松市文化財課)

8月1日(月)～9月4日(日)まで開催
スポット展示「三方ヶ原の戦い450年—
「酒井の太鼓と組上灯籠」

市HP▶博物館

検索



詳細は博物館ホームページに掲載しています。
P.22 「知っトク情報」にも掲載しています